

次に行きます。

上下水道管の老朽化対策についてです。

1月28日、埼玉県八潮市の県道が交差点付近で陥没し、トラックが転落しました。すぐ下流にある中川流域の下水道処理施設は、全国に2,200ある下水道事業の中で9番目に大規模で、現場の八潮市の下水道管は、口径が4.75メートルと巨大です。下水道を利用する120万人の住民生活に大きな影響が出ています。

国会でも審議されました。大規模施設で下水道管の破損が起きれば、住民に多大な負担がかかることが明らかになった。国は、下水道事業の広域化を推進し、また、下水道事業への企業会計の適用を推進したため、独立採算で運営されている。事故の復旧工事の費用を、下水道使用料という形で迷惑を被っている住民に負担を転嫁することがあってはならないと衆議院内閣委員会で日本共産党の塩川議員がただしました。政府は、明確な答弁を避けました。

下水に含まれる有機物や硫黄化合物が硫化水素となり、空気中の水分と反応し、硫酸を生成する。この硫酸が、コンクリートや金属製の管を腐食させるとお聞きしました。

本市の下水道管の現状は、どのようになっていますか。腐食のおそれのあるコンクリートの大きな下水道管は、どこにどのくらいの長さでありますか。点検は、どのくらいの頻度でされてきたのでしょうか。どのようにして点検するのでしょうか。そして、その結果はどうだったのでしょうか。

50年以上経過していて危険な管は、どのくらいありますか。大きな下水道管だけでなく、そのほかの下水道管についても現状をお聞きします。どのような管が何キロメートルあるのでしょうか。どのような状態でしょうか。50年以上の古い管は、どのくらいありますか。

老朽化対策の今後の計画についてお聞きします。どのような計画になっていますか。中長期の計画を教えてください。1キロメートル交換するのにかかる平均的なコスト、日数を教えてください。1年でどのくらい進みますか。工事費を全部下水道使用料で賄うのは困難だと思いますが、費用についてはどのように考えていますか。

上水道管についても、現状と今後の計画についてお尋ねします。水道は、私たちの生活に不可欠なインフラです。本市の水道水は、市内の22か所の井戸からくみ上げた地下水で100%賄われており、厚生労働省おいしい水研究会が示す、おいしい水の要件を全て満たす良質な水です。

しかし、近年、日本各地で水道管の老朽化が進み、漏水や断水、腐食や破裂など、トラブルを起こし社会問題となっております。埼玉県所沢市の道路から水が噴き出しておりました。水道管の維持管理にも大きな費用がかかります。40年の耐用年数をほぼ同時期に迎えて、莫大な費用と労力が求められている状況にあります。

能登半島地震では、水道の復旧は遅れに遅れ、3か月以上かかりました。日本国内の水道管の耐用年数は40年とされていますが、管路の総延長約74万キロメートルのうち、40年以上使い続けている水道管が約15万キロメートル存在すると言われてい

ます。
お尋ねします。本市では、400ミリメートルの大きな管、配水本管と、50ミリメートルから350ミリメートルの配水枝管があるとお聞きしました。総延長で何キロメートルで、40年以上の水道管はどのくらいありますか。今までに起きた大きなトラブルはどのようなものがありますか。長期間断水したようなケースはありましたか。

老朽化対策の今後の計画についてお尋ねします。1年にどのくらい進みますか。1%進むと100年かかる。本市の計画はどのようになっていますか。1キロメートル進むと1億円かかるとの報道がありました。水道料金だけで賄うのは難しいと思います。費用についてはどのように考えていらっしゃるでしょうか。お尋ねします。

○議長（小野辰夫） 答弁を求めます。玉井上下水道局長。

○上下水道局長（玉井和彦）（登壇） 上下水道管の老朽化対策についてお答えいたします。

まず、現状についてでございます。

本市の下水道管の現状についてお答えいたします。

埼玉県八潮市の道路陥没事故を受け、点検調査の対象とした直径2,000ミリメートル以上の下水道管は約800メートルで、50年を経過していないコンクリート製のボックスカルバートですが、腐食環境下にはなく、点検の結果、異常はありませんでした。

また、腐食のおそれのある箇所として、落差の大きいマンホールや圧送管の放流先など、21か所を事業計画に位置づけ、政令の定めに基づくガイドラインに従い、5年に1回の潜行目視やカメラ調査等による点検を実施しております。

なお、下水道管全体の管種の内訳につきましては、コンクリート管が約170キロメートル、塩化ビニル管が約400キロメートル、強化プラスチック複合管などの、その他の管が約30キロメートルで、これらの下水道管につきまして、ストックマネジメント計画に基づき、重要度や影響度などの観点から優先順位をつけ、カメラ等を用いた点検調査を実施しておりますが、耐用年数50年を超える古い下水道管約8キロメートルに異常は確認されておられません。

次に、今後の計画についてでございます。

下水道管の今後の中長期的な老朽化対策につきましては、御指摘のとおり、老朽化対策及び地震対策には多くの費用を要しますことから、優先順位をつけ、点検調査及び改築更新を進めているところでございます。今後も、国費など必要な財源の確保に努めつつ、新技術の導入など、様々な手法を取り入れながら進

めていく方針です。

また、改築更新にかかるコストにつきましては、管径や管種、現場条件等により大きく異なり、平均的なコストとしてお示しすることはできませんが、参考として、設計の実績がある直径700ミリメートルの管を更生工法で改築した場合、1キロメートル当たり約5億円で、工事の期間は数か月を見込んでおります。

しかし、工事の期間につきましては、布設替えなど、工法により大きく異なり、場合によっては複数年かかると思定されます。

次に、上水道管の現状についてでございます。令和5年度末での上水道配水管の総延長は、594キロメートル。そのうち布設から40年が経過した延長は189キロメートルであり、老朽化率は31.9%となっております。1年間に老朽化対策がどのくらい進むかにつきましては、令和元年度から令和5年度の5か年で、平均更新延長は約3.4キロメートルとなっております。

次に、今までに起きたトラブルでございますが、小規模な漏水は発生しましたが、数日間におたる長期間の断水など、市民生活への大きな影響を及ぼすトラブルは、これまでに発生しておりません。

今後の計画では、配水池や、特に重要な基幹管路の耐震化を優先して進めることとしており、老朽化対策及び地震対策には多くの費用を要しますことから、令和6年度から国費の交付要件が緩和されたことなどを受け、これらを最大限に活用するなど、必要な財源の確保に努めながら進めていく方針です。

○議長（小野辰夫） 再質問はありますか。井谷幸恵議員。

○7番（井谷幸恵）（登壇） 御答弁ありがとうございます。

水道のトラブルについては、本市は1日24時間受け付けているとお聞きしました。とても安心です。

上下水道は、独立採算制と受益者負担という現状から、維持、管理、修繕を強化すると、その費用が使用料の値上げにつながります。今回の事故をきっかけに、点検費用を国が全額補助するなどを検討すべきとの声がありますが、国に対してはどのような形で要望を上げていけますか。お尋ねします。

○議長（小野辰夫） 答弁を求めます。玉井上下水道局長。

○上下水道局長（玉井和彦）（登壇） 井谷議員さんの再質問にお答えいたします。

老朽化対策につきましては、今回の埼玉県の事故や昨年度の能登の地震を受けて、いろいろ国のほうで検討していることを聞いております。国とも、直接対応する機会が度々ございますので、その折につけ、老朽化対策、地震対策については制度の拡充をお願いしております。

全国的な要望でありますので、今後も、他の自治体とも連携を取りながら、県等を通じて要望してまいりたいと考えております。

○議長（小野辰夫） 再質問はありますか。井谷幸恵議員。

○7番（井谷幸恵）（登壇） 御答

弁ありがとうございました。

ジャーナリストで、建設問題研究者の声です。地方自治体には、建設・土木技術者が決定的に不足しています。国の責任で技術者を確保して、総点検できる体制をつくるべきです。公共事業を、大規模開発、新規事業優先から、上下水道、道路、橋梁、トンネル、河川、ダムなど、土木インフラなどの老朽化対策へと大転換することが今、求められています。このように専門家が述べております。

耐用年数が来て、老朽化して事故になりますと、市民の命に関わります。どうか市民の安心安全のため、土木インフラについて万全の対策を取っていただくことを要望して終わります。

ありがとうございました。